



第172号
編集発行
愛知学院大学
事務局 庶務課
☎ 470-0195
愛知県日進市岩崎町
阿良池12
電話 ☎ 0561-73-1111(代)

愛知学院創立134周年

大学の教育・研究の一層の充実を

学院長 小出 忠孝

式辞(要旨)

本日学院創立134周年記念式を迎え誠に喜びに耐えま
せん。今日の134年間、
歴代の関係各位のご努力とご
支援に深甚なる敬意と謝意を
捧げるものです。さて母校の
創立を祝うということは、第
一に母校の歴史を温めて母校
の今日ある所以を知ること、
第二に母校の現状を究めて母
校をより良くすること、第三
に母校の将来を期して母校の
発展を願うことです。

本日の創立記念日に第一に
銘記することは、本学院が開
祖道元禪師の教えを建学の精
神とし明治9年創設の曹洞宗
立の私学で、中部で最も古い
伝統を持つ名門である事です。
「学院大の飛躍的發展」
次に戦後の学制改革に際し
本学は時代の先端をきり、昭
和廿五年に短大を、28年に道
元禪師七〇〇回大遠忌の報恩
事業として大学を創設した事
です。戦後教育界の発展のト
ップをきった小出有三初代学

院長の先見の明と実行力に心
から敬意を表すものです。
第三に昭和36年中部地区最
初の歯学部を設置した事です。
之により本学のステータスは
飛躍的に向上し財政的基盤も
確立され、大愛知学院発展の
原動力となったのです。
第四に昭和51年に学院創立
百周年を記念し、日進キャン
パスを開設した事です。緑豊
かな50万㎡の広大なキャン
パスの設立が、本学の飛躍的成
長の基礎となったのです。

当時わが国は高度成長期に
あり社会の急速な進展に対応
し、本学では次々と新学部・
学科、大学院の増設、定員増
を行い、社会の要請にこたえ
ました。現在8学部17学科、大
学院9研究科、短大1学科に
教職員1千名、学生1万3千
名、同窓生11万名を有する中
部最大級の規模と充実した内
容の私立の総合大学と飛躍的
に発展しました。一方学生の
課外活動で多くのクラブが選
手個人が各種大会で優秀な成
績をあげ、また卒業生の社会
での活躍もめざましく、経済
界始め各界のリーダーとして
活躍しており本学の誇りとし
ています。

この様に本学は全国的に評
価される大学に成長しました
が、私共は現状に甘んずる事
なく、さらに向上発展させる
責任があります。その第一は
教育内容の充実です。現在わ
が国の大学短大進学率は58%
と上昇し、それに伴い学生の
学力、学習意欲は著しく多様
化しています。この様な学生
に適確に対応し社会の要請に
こたえるのが大学の使命です。
社会の求める豊かな教養と専
門的能力「学士力」を有する
人材の養成が必要で、さら
に本年は設置基準改正により
学生が卒業後、社会的・職業
的自立を図るために必要な能
力、即ち「就業力」育成が要
請されています。その上18才
人口減少による大学全入時代
という厳しい時代が到来して
います。この様な状況で大学
の学部は「高度」の高等教育
機関でなく「普通」の高等教
育機関に変化している事に、
意識を改革する必要があるま
す。この変化に対応し本学で
は授業内容の改善と共に、「学
生の理解できる授業」を促進
する様努めています。

「医療系分野の増強」
国民の健康長寿の要望に対
し、本学では医療薬学科、健
康科学科、健康栄養学科を、
大学院に薬科学研究科、健康
科学専攻の研究科を増設し医
療系分野を増強しましたが、
次年度には薬学部4年制大
学院博士課程を設置する準備
中です。一方研究面では本
年度文部科学省の科研費補助金
が、歯学部を中心として中部地
区最大のトップ3で、本学の研
究の充実を示しています。

一方昨年度文科省の重点政策
である「大学連携プログラム」
に、健康科学科を中心に歯・
薬学部と共に、愛知医大、県
立看護学部と連携し採用され
ました。地域の大学が国公
私立の枠を超えて連携、地域
の教育研究の高度化のための
新しい研究支援体制です。

「教育環境の改善」
本学は昨年学生会館、けや
きホールが完成、各種レスト
ランがオープン、学生のキャ
ンパスライフを快適にしまし
ました。また今夏一号館前に教
学センターが完成、学生に最
とも必要な教務部と学生部が
キャンパス中央に移転、学生
の利用が大変便利となりました。
また、補元校地では図書館の耐
震改修工事が完成、現在四号
館の改築工事中で、完成後は
補元校地の教室、研究室、
食堂等が整備されます。また
末盛校地では病院及び臨床関
係教室の増強を検討中です。

一方名城公園東の都心キャ
ンパス開設については、教育
環境、施設等の充実した日進
キャンパスを十分に活用しつ
つ、ビジネス関係学部の専門
課程を名古屋市中心に開設す
る計画で、現在用地買収等関
係官庁と折衝中で具体的な実
施方法等慎重に検討中です。

「学院大学の誇り」
以上本学では時代の変化に
対応し絶えず改革の努力を続
けて、教育研究の充実を努め
ています。一方私学として決
して「変えてはならないもの」
がある事を忘れてはなりません
。それは創立以来堅持して
きた建学の精神「行学一体・
報恩感謝」です。この建学の
精神を体した学生を、一人
でも多く社会に送り出す事が、
私学としての本学の特色であ
り使命です。本日創立一三四
年の輝かしい歴史をふり返り、
学院の今日ある姿を理解した
時「学院大の教職員・学生で
ある」ことに大きな誇りを持
って頂きたい。そして本学が
廿一世紀に大きく飛躍するた
め、各人が夫々の立場で努力
される事を要望します。

今日、愛知中学校、愛知高
等学校、短期大学部および8
学部17学科を擁する愛知学院
大学へと発展し、大学院も9
研究科13専攻が開設されま
した。総学生・生徒数は1万5
千有余名を有する大規模な学
校として発展を遂げてまいり
ました。

このように伝統のある愛知
学院大学を、さらに発展させ
ていかなければなりません。
学長に就任して以来、愛知
学院大学のことが新聞・テレ
ビ等でマスコミに取り上げら
れ、種々お騒がせをしてお
ります。まずもってお詫
び申し上げます。硬式野球部
の使途不明金の問題は、現在
調査委員会を立ち上げて調査
中ですが、11月中旬に結論が
出る予定です。さらに、法学部
長室への消火器噴射事件、六
発の銃弾送付事件、キャリア
センターの部長・次長・課長

の解任等々と枚挙に暇がない
ほど様々な事件や問題が起こ
っております。見直しをすれ
ば、様々なところに膿がたま
っており、毅然として愛知学
院大学の再生に取り組んでい
きたいと考えております。

4月以來、事件や問題の解
決のために殆どの時間がとら
れました。しかし、先ず安心
して働いてもらえぬ職場環境
を整備していくことも重要な
課題であり、これからのこれ
らの問題に取り組んでいき
たいと考えております。

ただ、事件や問題が起こっ
てから対応するのではなく、
日頃から安心・安全な大学環
境を整備し再構築していかな
ければならないと考えており
ます。

大学が発展していくための
条件として、入試・教育・キ
ャリアに尽きるといっても過
言ではありません。入試・教
育・キャリアは、本来、相互
に依存関係があり、別々に論
じることではできませんが、あ
えてそれぞれの目標を論じて
おきたいと思ひます。

入試に関しては、偏差
値を上げなければ絶対に生き
残ることはできない、という
事実認識から出発しなければ
なりません。偏差値を上げる
ためには、2万人台の受験生
を集めなければなりません。
そのためには、教員の一人ひ
とりが、ご自分の教育に自己
満足することをやめ、「自己
の教育改革」を実行してもら
わなくてはなりません。いく
ら偏差値を上げても、教員の
教育に絶望するようでは、志
願者を集めることはできま
せん。

来年度の入試は、学院長の
ご理解で、確保目標を定員通
りにすることが決定されまし
た。

教育に関しては、教務委員
会・FD委員会等で種々検討
して頂いております。先ず、
「初年次教育」ですが、現在
教養部と各学部の話し合いが
行われ、両者の意見が必ずしも
一致していないようです。大
学教育の基盤となるのが初年
次教育であり、新入生のため
に接点を見出し、具体的な教
育方法を案出して頂きたいと
お願い申し上げます。

また、学生の授業アング
ルですが、教員が授業法を改
善したかどうかを検証するシ
ステムがないことが問題でし
た。その問題点を改善するた
め、秋学期より全教員の授業
(1・2科目)を開放して、
各学部の教員が授業を参観し
て評価をすることを実施して
いただくことになりました。

全教員が教育のプロになるた
め、他の教員の評価に真摯に
耳を傾けて、授業法の改善に
取り組んでいただきますこと
をお願い申し上げます。

キャリアに関しては、学生
の皆さんにとつて就職相
談がしづらかった環境であつ
たことを先ずもってお詫び申
し上げます。今日、学生の就
職率が大学の評価対象となつ
ております。卒業生全員が就
職できて初めて大学の責任が
全うされます。企業開拓等し
て就職率のアップをはかって
いただきますようお願い申し上
げます。

大学が未来永劫生き残れる
かどうかは、一人ひとりの教
職員の皆様の肩に懸かってお
ります。責任を持って教育・
研究をし、業務を遂行してい
ただきたいをお願い申し上げ
ます。

創立134年に

思いを込めて

学長 大野 榮人

10月15日に愛知学院は創立
134年を迎えました。改め
て責任の重さを実感しており
ます。

今日に至るまで、愛知学院
を支えて下さった教職員や11
万人の同窓生の各位に対しま
して、衷心より御礼申し上げ
ます。

愛知学院は、明治9年(1
876)の創立当初、曹洞宗
専門学支校として、曹洞宗の
僧侶を養成する小規模の学校
として出発いたしました。以
来、曹洞宗第三中学院、愛知
中学校、新制愛知中学校、愛
知高等学校、愛知学院短期大
学へと規模を拡大し、昭和28
年(1953)には、商学部
商学科の愛知学院大学が開
校されました。

今日、愛知中学校、愛知高
等学校、短期大学部および8
学部17学科を擁する愛知学院
大学へと発展し、大学院も9
研究科13専攻が開設されま
した。総学生・生徒数は1万5
千有余名を有する大規模な学
校として発展を遂げてまいり
ました。

このように伝統のある愛知
学院大学を、さらに発展させ
ていかなければなりません。
学長に就任して以来、愛知
学院大学のことが新聞・テレ
ビ等でマスコミに取り上げら
れ、種々お騒がせをしてお
ります。まずもってお詫
び申し上げます。硬式野球部
の使途不明金の問題は、現在
調査委員会を立ち上げて調査
中ですが、11月中旬に結論が
出る予定です。さらに、法学部
長室への消火器噴射事件、六
発の銃弾送付事件、キャリア
センターの部長・次長・課長

の解任等々と枚挙に暇がない
ほど様々な事件や問題が起こ
っております。見直しをすれ
ば、様々なところに膿がたま
っており、毅然として愛知学
院大学の再生に取り組んでい
きたいと考えております。

4月以來、事件や問題の解
決のために殆どの時間がとら
れました。しかし、先ず安心
して働いてもらえぬ職場環境
を整備していくことも重要な
課題であり、これからのこれ
らの問題に取り組んでいき
たいと考えております。

ただ、事件や問題が起こっ
てから対応するのではなく、
日頃から安心・安全な大学環
境を整備し再構築していかな
ければならないと考えており
ます。

大学が発展していくための
条件として、入試・教育・キ
ャリアに尽きるといっても過
言ではありません。入試・教
育・キャリアは、本来、相互
に依存関係があり、別々に論
じることではできませんが、あ
えてそれぞれの目標を論じて
おきたいと思ひます。

入試に関しては、偏差
値を上げなければ絶対に生き
残ることはできない、という
事実認識から出発しなければ
なりません。偏差値を上げる
ためには、2万人台の受験生
を集めなければなりません。
そのためには、教員の一人ひ
とりが、ご自分の教育に自己
満足することをやめ、「自己
の教育改革」を実行してもら
わなくてはなりません。いく
ら偏差値を上げても、教員の
教育に絶望するようでは、志
願者を集めることはできま
せん。

来年度の入試は、学院長の
ご理解で、確保目標を定員通
りにすることが決定されまし
た。

教育に関しては、教務委員
会・FD委員会等で種々検討
して頂いております。先ず、
「初年次教育」ですが、現在
教養部と各学部の話し合いが
行われ、両者の意見が必ずしも
一致していないようです。大
学教育の基盤となるのが初年
次教育であり、新入生のため
に接点を見出し、具体的な教
育方法を案出して頂きたいと
お願い申し上げます。

また、学生の授業アング
ルですが、教員が授業法を改
善したかどうかを検証するシ
ステムがないことが問題でし
た。その問題点を改善するた
め、秋学期より全教員の授業
(1・2科目)を開放して、
各学部の教員が授業を参観し
て評価をすることを実施して
いただくことになりました。

全教員が教育のプロになるた
め、他の教員の評価に真摯に
耳を傾けて、授業法の改善に
取り組んでいただきますこと
をお願い申し上げます。

キャリアに関しては、学生
の皆さんにとつて就職相
談がしづらかった環境であつ
たことを先ずもってお詫び申
し上げます。今日、学生の就
職率が大学の評価対象となつ
ております。卒業生全員が就
職できて初めて大学の責任が
全うされます。企業開拓等し
て就職率のアップをはかって
いただきますようお願い申し上
げます。

大学が未来永劫生き残れる
かどうかは、一人ひとりの教
職員の皆様の肩に懸かってお
ります。責任を持って教育・
研究をし、業務を遂行してい
ただきたいをお願い申し上げ
ます。

10月15日

創立134周年記念式典を挙

愛知学院創立134周年記念式典が10月15日(金)午前10時から日進キャンパス百周年記念講堂で挙行され、第一部の式典では小出学院長の式辞に続き、勤続表彰、クラブ表彰などが行われた。
また、平成22年度永年勤続表彰は次の皆さん。



40年勤続者
大学事務局 事務局長 内田 友宏
心身科学部 教授 酒井 亮爾
商学部 教授 小池 秀夫
教養部 教授 伊藤 法瑞
歯学部 教授 中垣 晴男
短期大学部 教授 岡野 恒一
歯学部事務室 主任 中川 辰典
附属病院 検査部主任 廣瀬 公美
35年勤続者
愛知学院大学 大学長 大野 榮人
心身科学部 教授 伊藤 元雄
講師 高見 観

25年勤続者
総合政策学部 教授 二宮 克美
文学部 教授 林 淳
経営学部 教授 岸 善徳
法学部 教授 服部 朗
教養部 教授 勝股 高志
歯学部 教授 戸部 彰史
歯学部 教授 吉田 長門
特別診療科 教授 吉田 憲司
特別診療科 教授 鶴田 昌三
商学部 准教授 城 隆
教務課 課長 植田 和次
管財課 技術員 山本 祐治
主計課 事務職員 堀内 明美

歯学部 教授 岡田 千昭
歯学部 准教授 星合 和基
講師 新井 通次
短期大学部 講師 佐藤 厚子
歯科技工専門学校 講師 横井 次郎
学生部 次長 大塚 隆寛
主計課 課長 武田 昇道
管財課 課長 堀場 久史
会計課 主任 西尾 靖子
教務課 主任 日比 千鶴
附属病院 院長補佐 松尾 綾江
看護補助者 志水ひとみ
教養部事務室 事務職員 外村美津子



心身科学部事務室 実験助手 佐藤 照代
附属病院 歯科衛生士 加藤 万理
15年勤続者
教養部 教授 石川 一久
商学部 教授 市野 初芳
法学部 教授 南川 和範
歯学部 講師 佐藤 孝一
講師 鈴木 一吉
講師 盛口 敬一
経理課 課長 石垣 孝浩
教務課 課長補佐 早川 実良
附属病院 看護部主任 北沢 敏美
人事課 事務職員 神谷 美奈
用度課 事務職員 三宅 華有
研究支援課 事務職員 安川 亜弥
教務課 事務職員 石田 美佐
事務職員 広瀬久美子
学生課 事務職員 市川 敦子
商学部事務室 事務職員 上原 志乃

10月20日(水)、日進キャンパス3号館4階に新たに文学部博物館がここのほど完成し、開所式が行われた。
セレモニーではテープカットに続き、小出学院長の挨拶後、大野学長・安藤文学部長からも挨拶をいただいた。
新しく完成した文学部博物館には、本学の文学部歴史学科が所蔵する資料を展示し、特に愛知県小牧市にある尾張地区の曹洞宗の禅林で第一の臣利である正眼寺(しょうげんじ)の寺宝を展示するとともに、貴重な資料が多数展示してある。
また、博物館の入口には劉



文学部博物館

開設

作勝 文学部日本文化学科外国語教師の書による表札が掲げられており、書体は文学部博物館に相応しくまた風格を持った表札となっている。

博物館の拝観については文学部事務室、もしくは文学部歴史学科共同研究室までお尋ねください。

この日の慰霊の対象は、平成21年10月1日から平成22年9月30日までの間に逝去の届出のあった本学関係物故者69霊位(うち教職員36名、学生33名)。
ご遺族、教職員、大学後援会同窓会役員、学生らが参列し、読経の中参列者が焼香をし、法要の最後に小出学院長が挨拶を述べ、物故者の冥福をお祈りした。

平成22年 物故者追悼会 厳修

愛知学院創立134周年記念式典に続いて、第2部の物故者追悼会では、小出学院長が導師をつとめ厳かに営まれた。

教学センター

完成



9月2日(木)、日進キャンパス1号館前に建設していた教学センターがこの度完成し、オープンセレモニーが開催された。建築面積は1798・54㎡、地上1階、鉄骨鉄筋コンクリート造。
新しく完成した教学センターは、入口側の壁面は全てガラス窓になっており、教学センターの中はとて明るく、また以前の本部棟での教務・学生課の床面は学生の床面より一段高かったため、窓口越しの応対の際に不具合もあったが、新しく完成した教学センターでは学生・職員が相談しやすいように、同じ床面のカウンター形式になっており、より学生にとっては相談しやすい形態となった。
また、新しい教学センター



セレモニーではテープカットに続き、小出学院長の挨拶後、大野学長・青山稔大学後援会会長からも挨拶をいただいた。
新しく完成した教学センターは、入口側の壁面は全てガラス窓になっており、教学センターの中はとて明るく、また以前の本部棟での教務・学生課の床面は学生の床面より一段高かったため、窓口越しの応対の際に不具合もあったが、新しく完成した教学センターでは学生・職員が相談しやすいように、同じ床面のカウンター形式になっており、より学生にとっては相談しやすい形態となった。
また、新しい教学センター

は日進キャンパスの中央に位置し、学生にとって教務・学生課がキャンパス中央に配置されたことによる利便性が向上し、より良いキャンパスライフを過ごすことができることとなった。

また、教学センターの新設に伴い1号館1階も改修工事が行われ、新たに完成した部屋にネットワークセンター・電算化企画室が移転し、大学のネットワークの中核機能であるサーバー類も移転に伴い新たに新調となり、より充実したネットワーク環境の整備がされた。



戦略的大学連携支援G.P.公開講演会開催

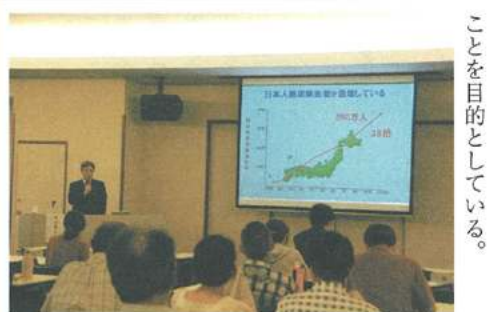
本学が代表校として取り組んでいる平成21年度採択、文部科学省戦略的大学連携支援G.P.で、去る8月7日(土)午後1時より日進キャンパスやきホールにて、連携G.P.事務局である東名古屋地域生活習慣病指導教育連携センター主催として、公開講演会が開催された。

主催の本学・心身科学部長・佐藤祐造委員長挨拶のあと講演が行われ、講師に横浜市立大学教授寺内康夫氏・兵庫医療大学教授前田初男氏・京都大学教授田中実氏の3名を迎え「糖尿病発病予防のアプローチ」「ポリアイ4大学連携事業・健康生活支援ステーションでの試み」「連携とFD」という演題で多岐にわたる講演が行われた。

この企画は本G.P.の一環事業として行われ、一般市民に

したクライシスにより、糖尿病患者を急激に増加させており、これからどういったことに心がけていくべきか原因と対策についての講演があり有益なものであった。また、前田氏からは連携事業の目的と戦略について、自身が担当している大学連携G.P.の体験を踏まえて講演がなされ、田中氏からはセンターの立場から教育開発・改革の為に地域連携の必要性や、大学間の人的・物的資源の共同利用等の有効活用を推進することにより、教育力を向上する必要性の説明がなされた。

生活習慣病予防の理解を深めることを目的とし、さらなる拡大を目指すものである。将来的には本取組みを基礎に、より総合的な教育連携へ事業を拡大し21世紀型市民の育成と、地域における生活習慣病予防に関する診療・指導レベルの向上を目指し、知の拠点として人材育成の推進を図ることを目的としている。



平成22年度 司法試験に本学より3名合格

9月9日(木)、平成22年新司法試験の合格者の発表があり、本学法科大学院修了者の中から3名が合格した。今後も、より一層質の高い教育を実現できるよう法科大学院を挙げて取り組む。

合格した3名には10月15日の創立記念式典において特別表彰され、表彰状と記念品が手渡された。法務研究科を支えて頂いた

学内外の多くの方々により感謝するとともに、今後の合格者の活躍が期待される。



第15回 愛知歯科保健文化賞 田中 貴信 歯学部附属病院長 受賞

9月18日(土)、あいち健康プラザ健康科学館にて、愛知歯科保健文化賞による第15回愛知歯科保健文化賞の授賞式が行われ、本学歯学部附属病院長の田中貴信教授が第15回愛知歯科保健文化賞個人部門を受賞した。

本学附属病院が愛知県における歯科の中心的な病院であること、また附属病院の病院長として日々精力的に活躍し、また歯科医師会に所属し、最新の歯科医学の発信と患者を中心とした医療連携の充実に尽力した功績に対し対象となった。



今後の発展していくことが期待される。

第8回ボンド大学 交換留学生決まる

今年で8年目となるオーストラリア・ボンド大学への交換留学生に文学部グローバル英語学科3年野崎祐未が決定した。

7月28日(水)日進キャンパスの学長室で奨学金伝達式が行われ、伝達式では、引田弘道国際交流センター所長、指導教官のメイソン・ポール先生らが見守る中、大野榮人学長より奨学金30万円が手渡された。

野崎さんは9月9日から12月21日までの1セメスターをボンド大学附属語学学校BUELIで語学を中心に学ぶ。

野崎さんは今年2月に6週間の短期留学をした際、自身の語学力のなさと同時に視野の狭さを気づかされた経験を活かし、英語力の向上だけでなく、困難に直面した時に立ち向かい解決していく力を身につけ、社会に必要なスキルを身につけたいと抱負を語っていた。

野崎さんのオーストラリアでの学習が実り多きものとなることを祈念する。

野崎さんは今年2月に6週間の短期留学をした際、自身の語学力のなさと同時に視野の狭さを気づかされた経験を活かし、英語力の向上だけでなく、困難に直面した時に立ち向かい解決していく力を身につけ、社会に必要なスキルを身につけたいと抱負を語っていた。



本学より 李 智基氏、 鄧 兆武氏、Myint San 氏 の3氏に博士号授与



李 智基(リ チキ)氏
博士(法学)

李智基氏は、昭和46年生。平成10年本学法学研究科法律学専攻聴講生を経て、本学法学研究科法律学専攻博士前期課程に入学、平成13年同博士後期課程に入学、平成16年単位取得満期退学。平成16年から平成20年3月まで本学法学研究科法律学専攻研究員。平成20年4月より鈴鹿短期大学特任助教、愛知産業大学経営学部非常勤講師。

博士論文は「会社債権者保護と取締役の義務・責任—中国における法整備への提言—」。資本主義経済の導入によって経済発展が目覚ましい中国においては、会社法における会社債権者保護法制度の未成熟は深刻な問題となっている。現在の中国企業の大半が国営企業であり、官僚に経営が委ねられている結果、会社債権者が害される事例が頻発している。そうした状況の中で本論文は中国において会社破綻時に会社債権者を効果的に保護するための制度論を検討するもので、中国における立法提案を行っている。



鄧 兆武(トウ チョウブ)氏
博士(経営学)

鄧 兆武氏は昭和43年生。本学経営学研究科聴講生を経て、平成15年本学経営学研究科経営学専攻博士前期課程修了、平成15年経営学研究科研究生、その後、平成19年本学経営学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得満期退学。平成19年から20年まで本学経営学研究科研究員。平成20年4月より中国魯東大学商学部専任講師。

博士論文は「中国国有企業におけるトップ・マネジメントのリーダーシップ研究」。中国企業、とりわけ中国国有企業のトップ・マネジメントの研究で、総経理、書記、董事長を取り上げ、彼らのリーダーシップ行動が、企業文化、従業員のモチベーション、さらには企業業績にどのように結びつかを検討した。

本論文は4つの研究から構成され、複数の企業を対象とした定量的研究と特定企業を対象とした事例研究から成立している。本論文の目的は、中国国有企業のトップ・マネジメントのリーダーシップが企業文化、従業員のモラル、および企業業績とどのような関係があるかを明らかにすることを目的としている。



Myint San(ミン・サン)氏
博士(総合政策)

ミン・サン氏は昭和38年生。平成6年名古屋大学経済学研究科博士前期課程経済学専攻修了後、名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生、平成12年名古屋大学大学院多元数理学研究科博士後期課程経済学専攻博士課程満期退学後、平成14年より本学大学院総合政策研究科研究員。

博士論文は「Housing and Economic Development—Special Focus on Yangon City, Myanmar—」。ミン・サン氏のこれまでの研究の中心は、開発途上国における住宅政策の研究であり、今回の学位請求論文も途上国の住宅投資と経済発展との関係について計量経済学的研究を行い、ミャンマーの住宅政策の現状と課題を論じている。

この研究の一部は審査付論文として公刊されている。それ以外の分野は、ミャンマーの軍事費が経済成長にマイナスの影響を与え、教育、医療、住宅への政府支出を圧迫していることを明らかにした計量分析や、ミャンマー・タイ間の国境周辺における女性移民者の現地調査報告書などがあり、ミャンマーの経済・社会の現状に関する総合的な研究が試みられている。

就職活動について

今年の4年生は厳しい就職活動が強いられています。そのため、11月の時点でも就職活動中の学生が大勢キャリアセンターに来ています。すでに内定を持っている学生は10月の内定式をもって来春の入社が確定しています。それらの多くは昨年(3年生)の10月の早期からスタート・ダッシュを切った学生たちだと考えられます。

キャリアセンターに「自分は未内定だ」と連絡を入れてくれた学生には、現在も採用活動中の企業や採用活動を再開した企業の情報を逐次送っています。中には本学の学生を採用したいとして、本学の指定して求人をしていただけの企業もありますので、連絡が取れている学生たちは順次内定を獲得してきています。

しかしながら、皆さまご承知のように今後もしばらくは就職環境について、昨今の経済情勢により、好転の兆しが見えていません。そんな中での就職活動となっていますので、これをご覧いただいた方々に是非とも求人が増加するよう努めていただきたいと思います。



さて、11月から学内企業研究セミナーと銘打ち、本学学生に直接企業情報を提供してもらえ、説明会を実施します。来年2月まで学内で順次開催していきますので3年生に向けて行っているガイダンスや、学内掲示に十分注意してください。



キャリアセンターは就職活動における学生の皆さんに密着して応援していきます。

インターンシップ、キャリアデザインについて
3年生、4年生の就職対策だけでなく、将来の自分自身のキャリアを作っていくためにキャリア委員会では、1年生・2年生では秋学期授業科目としてキャリアデザインを開講し「社会への係わり方」、「グループワークでの対処の仕方」や「企業・機関へのアプローチの仕方」などを教授していきます。

2年生・3年生ではインターンシップ(春学期に登録の授業)に参加し、春学期の教室での授業後、夏休みには実際に企業・機関で10日間の研修を行い、夏休み明けに各学部で研修発表会を行います。キャリアデザイン、インターンシップの2つの体験授業で3年生10月からの本格的な就職活動の前に学生が自らの将来像を描けるようにしていきます。

キャリアセンター 就職課
課長 中尾 猛

今年もオープンキャンパスが春4月18日(日)、夏7月31日(土)・8月1日(日)、秋10月23日(土)に開催され、昨年より801人(9.4%)多い9346人の高校生らが訪れ賑わった。

18歳人口が減少する中、本学へのオープンキャンパスへの参加者は年々増えており、保護者の来場も多くなっている。

オープンキャンパスは高校生や保護者にキャンパスを開放し、愛知学院大学をより知ってもらうためのイベントで、学部教員による個別相談会、模擬講義、保護者対象説明会、予備校講師による受験対策講

座、入試・資格・就職等の相談コーナーや、在学生によるキャンパスツアー、サークル体験など、内容も充実している。

高校生らの関心が最も高かったのは、カリキュラムや学習支援体制を中心とした学部学科別相談会や入試などの説明会、また模擬講義にも多数の高校生が参加し大学での講義に触れた。

参加した高校生からは「学部学科の学習内容の違いがはつきりわかり、進路選びにとっても参考になった」「とても良い環境で勉強しやすい」「在学生の案内や相談の教職員の対応が丁寧でわかりやすかった」などの感想が寄せられた。

オープンキャンパス

高校生ら9346人が参加

また保護者からも「就職支援体制や学習環境の支援体制がしっかりしている」「在学生の積極的な姿が良かった」などの声が聞かれた。

第40回中部学生ゴルフ選手権が8月10日岐阜県関市の岐阜関カントリークラブ東コース(7256ヤード)で行われ、本学経営学部現代企業学科3年の小島大輝君が通算イーブンバーの144で初優勝を飾った。

当初54ホールの後半36ホールが行われる予定だったが、雷雨による中断のため18ホールに短縮。見島君は最終18番

ホールをバーディーであり、この日70で回り2位に1打差でホールアウト後に優勝を知らされた。

今後の小島君の活躍に活躍したい。



しんでもらえた時の笑顔や、参加者や関係者の方々の一生懸命な取り組みが原動力となり、楽しいときの笑顔や、一生懸命な姿も素敵な「煌」といえる。より多くの「煌」を作ってほしいという願いが込められている。

主な学術企画として、文化系サークルの研究発表会の「学問の散歩道」。本学の教員2名による「ミニセミナー」スポーツ企画として、「フリースロー大会」「フットサル大会」など。また、各種ステージ企画など盛りだくさんの企画が行われ、会場は大いに賑わった。

今年のゲストは、「ペナルティ」「ライス」「ジュニーズ」「エリートヤンキー」の4組で、共にテレビなどで活躍中の若手お笑い芸人で、「フイナレ★イベント!!お笑いライブ」と称し、大勢の聴衆が詰めかけた。また、フイナレでは、花火が打ち上げられ、溢れんばかりの歓声と拍手の渦に包まれた。様々な個性ある人が集まり、色々な煌が生まれた第58回愛学祭「煌」は、盛況の内に幕を閉じた。

過日十月二十六日、「第六十二回保健文化賞」受賞式、翌二十七日に皇居において天皇皇后両陛下の拝謁があり、皇太后陛下の御下向が実現した。この賞は、第一生命保険(渡邊光一郎社長)が社会貢献活動の一環として、保健衛生の分野で優れた業績を表彰するもので、昭和二十四年に制定され、今回は六十二回となり、十団体と個人五名が受賞し、同窓会の「AGU DAA-Vフイリピン」が評価された。

第58回 愛学祭

テーマ「煌」

同窓会の国際交流委員会の一つで、歯科保健医療が選れているフイリピンを対象にAGU DAA委員会を千九百九十八年結成して以来、周到な準備の上、全国から賛同する有志たちを募って毎年、数回にわたり遠征を続けている。このフイリピン・ボランティア活動は、「貧困のため医療活動に恵まれないフイ

リピン・マニラ近郊の住民に對して、現地の人々と協力して、無償歯科治療及び口腔衛生指導を実施するとともに、小学校において教員への保健教育や児童への口腔健診、保健指導を行うなどのボランティア活動を行っている。また、現地の歯科医師を招聘して人材育成を行っている。」など国際交流を図っている。今後の更なる活動が期待される。

第62回 保健文化賞 贈呈式

愛知学院歯学部同窓会「AGU DAA-Vフイリピン」第六十二回保健文化賞を団体受賞

に参加して

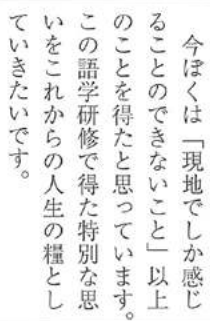
イギリス・カナダ・オーストラリア

3年 奥田 祐介

エディンバラでの生活はほ
くが渡航以前に抱いていた期
待をはるかに上回るものでし
た。

はじめはなれない英語で不安を感じることもあるのではと思っていました。が、実際現地では親切な人が多く拙い英語でも様々な国の人と交流することができました。

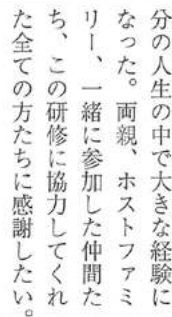
二階建てバスに揺られて歴史のある街並みを抜けて大学に通う。昼にはティータイムをとり、授業後はフエスティバルに参加する。新鮮な景色



文学部国際文化学科

3年 伊藤 咲季

わたしはもともと、大学生になるまで海外に行って勉強をすることやホームステイすることに興味^{きょうみ}がなかった。というより、不安や抵抗があった。日本語も通じない、食べ物も住む場所も生活サイクルも違う、異国の地という慣れ



ち、この研修に協力してくれた全ての方たちに感謝したい。

経営学部経営学科

3年 岸下 尚人

私は、夏休みを利用して、
学校主催の海外語学研修オ―

ストラリアコースに参加しました。オーストラリアでは、3週間をゴールドコーストで

過ぎ、シドニーで2日過ぎ、合計23日間の語学研修でした。

ゴールドコーストは、AU
Sではリゾート地とされてお
り、私がホームステイした家

も、とても立派なものでした。ホストファミリーの方々も、暖かく受け入れていただき、

今回の語学研修は、自分の今後の為と、語学そのものにも興味があったので、参加しうでした。

寄付金ご協力のお願い

話が成り立たないので、知っている単語を並べ、身振り手振りですら死にコミュニケーションをとりました。最初は単語を並べ、間違った文法を使っていたのですが、普段の授業や、ホストファミリーに正しい英語を教えてもらえたので英語の会話には徐々に慣れていきました。正しい英語も少しずつ身につけていたとも思

本学では厚生施設の建替えなど、学生の福利厚生、教育環境の充実・向上のために各種施設の整備を進めてまいりました。今後もさらに教育環境の充実に努めたいと思います。こうした事業費の一部に充当するために寄付のお願いを致しましたところ、多額のご寄付を賜り、厚くお礼申し上げます。

なお、引き続き次の要領で募集しておりますので、皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

1. 寄付方法

寄付申込書を送付の上（切手不要）、銀行振込にて平成23年3月末日までに1口1万円を2口以上でお願いします
用紙をお持ちでない方はご連絡

ただければ送付いたします
（この寄付金は個人・法人と
もに特定公益増進法人への寄
付金として、免税処置が適用
されます。）
2. お問い合わせ先
〒470-0195 愛知県日進市
岩崎町阿良池12
大学事務局庶務課
電話 0561(73)1111(代)

寄付金ご協力者

ご芳名録

(順不同)

平成22年10月20日 処理分

10口	神野 建明	吉岡 宣史朗	谷山 秀人	森 貴紀	鈴木 基義	鈴木 基義	森 誠
松浦 操	大萱生 良寛	佐藤 光晴	坂井 克次	高津 芳孝	相木 七良右門	藤本 知哉	
佐藤 敬子		鈴木 信良	林 盛久	藤澤 直文	岡崎 仁志		
5口		松本 享	高瀬 正敏	三輪田 庸一	二村 昇		
星野 正英	坂口 真次	井上 秀基	児玉 寿昌	畑中 信子	山田 博規		
吉田 博	内田 宏	若松 宣一	伊藤 拓	坂井 邦次	小栗 広海		
		太田 好彦	近藤 浩徳	松浦 均	野田 千恵		
		間瀬 猛	外山 嘉紀	山田 豊美	波多野 肇		
3口		生沼 恵	早川 貞之	藥師寺 厚夫	大飼 邦夫		
松岡 兼司	村主 正博	目梨 慶一	鈴木 立志	原 正幸	鈴木 成之		
杵名 昭夫	森山 宜直	中島 弘人	竹内 有美	丹羽 実	土方 博久		
瀨古 尚登	若槻 豊	出村 昇	吉田 欽一	伊藤 一也	金山 尚文		
遠藤 修弘	稲本 鶴法	滝 良明	加納 理行	会坂 景治	山田 員史		
厚芝 勘二		川口 廣	加藤 裕司	角岡 正彦	鎌田 俊夫		
		小林 恵子	宮本 智次	林 正幸	杉山 昌宣		
2口		山崎 英樹	中村 勲	松原 徳実	横山 登美雄		
瀨古 邦彦	神谷 憲治	内田 知	田中 桂一	鈴木 義裕	大橋 勲		
廣地 康明	鈴木 正廣	肥田 達彦	近藤 隆信	津田 芳人	迫田 みどり		
坂井 一也	西本 万洋	佐藤 靖文	伊藤 博幸	堀尾 康男	江尻 治		
飯田 康博	棚町 邦博	上原 規男	新倉 兼二	嶋田 治	都築 和人		
湯浅 鈴男	南 孝英	望月 直	土井 正幸	亀井 国夫	池村 康成		
酒井 克彦	米倉 千浩	杉山 忠臣	園田 功	高田 佳弘	堀 仁		
亀川 義富	岡田 厚美	堀 廣幸	小野木 基夫	堀 拓郎	土田 貴史		
小田 一夫	永井 稔	高木 学	園部 敦好	山中 敏	堀 善治		
半田 直樹	福澤 厚美	山下 倫朗	高橋 勝敏				
伊藤 晃吉	長谷川 博司	則武 克彦	中西 美奈子				
宮川 哲雄	濱尾 博巳	小川 哲夫	中川 常男				
吉田 純治	早川 洋	大羽 健二	中原 敏正	1口			
		水野 岸子	佐藤 秀之	高橋 良司			

平成22年創立記念日 クラブ表彰一覧

(平成21年10月1日～平成22年9月30日)

▷一般表彰(団体の部)

クラブ名	大会名	成績
アイスホッケー部	中部学生アイスホッケー選手権	優勝
ソフトテニス部	秋季東海学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦	優勝
〃	西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会	準優勝
〃	第81回愛知学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦	優勝
〃	第82回愛知学生ソフトテニス大学対抗リーグ戦	優勝
硬式野球部	愛知・東海・北陸3連盟王座決定戦	優勝
〃	愛知大学野球春季リーグ戦	優勝
バレーボール部	愛知オープンバレーボール選手権大会	優勝
〃	天皇杯・皇后杯全日本バレーボール選手権大会愛知県ラウンド	優勝
空手道部	秋季東海地区大学空手道選手権大会	男子団体戦:優勝 男子個人戦:優勝
〃	日本空手協会東海地区空手道選手権大会	男子団体戦:優勝 男子個人戦:優勝
ラグビー部	全国地区対抗大学ラグビー大会	優勝
Singing All Stars	東海ビッグバンドコンテスト	最優秀賞
日本拳法部	中部日本学生拳法選手権大会	優勝
剣道部	東海女子学生剣道優勝大会	優勝
射撃部	第77回中部学生ライフル射撃選手権大会	総合優勝 10mエアライフル:優勝 10mエアピストル:優勝
〃	第78回中部学生ライフル射撃選手権大会	総合優勝 10mエアライフル:優勝 10mエアピストル:優勝
〃	中部学生ライフル射撃三姿勢大会	10mエアライフル:優勝 10mエアピストル:優勝
〃	中部学生ライフル射撃伏射大会	10mエアライフル:優勝 10mエアピストル:優勝
バレーボール部(女子)	東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会	優勝
チアリーダー部	中部チアリーディング選手権大会	規定演技大学の部:1位

▷一般表彰(個人の部)

学科	氏名	クラブ名	大会名	成績
商	村上 雄人	ソフトテニス部	天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会	ダブルス:3位
商	〃	〃	東海学生ソフトテニス選手権大会	シングルス:優勝 ダブルス:優勝
商	〃	〃	西日本学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス:優勝
商	〃	〃	全日本学生大学対抗ソフトテニス大会	ダブルス:ベスト8
商	後藤 渉	〃	天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会	ダブルス:3位
商	〃	〃	東海学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス:優勝
商	〃	〃	西日本学生ソフトテニス選手権大会	ダブルス:優勝
商	〃	〃	全日本学生大学対抗ソフトテニス大会	ダブルス:ベスト8
ビジネス	松井 準	準硬式野球部	東海大学準硬式野球秋季リーグ戦	ベストナイン(捕手)
現企	田中 俊行	〃	東海大学準硬式野球春季リーグ戦	ベストナイン(セカンド)
薬	高井 悠貴	スキー部	東海学生基礎スキー選手権大会	男子個人総合:優勝
薬	〃	〃	全国学生岩岳スキー大会(基礎スキーの部)	男子個人総合:7位
薬	〃	〃	全国学生岩岳スキー大会(アルペン競技の部)	スーパー大回転:7位
ビジネス	小川 宗馬	ウェイトトレーニング部	中部学生秋季パワーリフティング選手権大会	男子90kg級:優勝
総合	越山 祐樹	〃	中部学生パワーリフティング大会	82.5kg級:優勝
ビジネス	井ノ下亜美	水泳部	愛知県短水路選手権	50m背泳ぎ:優勝
ビジネス	〃	〃	中部学生短水路選手権	200m背泳ぎ:優勝
ビジネス	〃	〃	中部学生選手権	200m背泳ぎ:優勝
国文	樋渡 友里	〃	愛知県選手権水泳競技大会	50m平泳ぎ:優勝
経営	林 基樹	詩武道部	練正館空手道選手権大会	有給の部:優勝
歴史	松本 世良	居合道部	東海学生居合道大会	二段以上の部:優勝
歴史	吉武 佳祐	〃	東海学生居合道大会	初段の部:優勝
現企	小島 大輝	ゴルフ部	中部学生ゴルフ選手権	優勝
経営	上杉 司	硬式庭球部	東海学生新進テニス選手権大会	ダブルス:優勝
総合	渡邊 勇人	〃	東海学生新進テニス選手権大会	ダブルス:優勝
現社	浦野 博司	硬式野球部	愛知大学野球春季リーグ戦	最優秀選手賞(ベストナイン)
歴史	永嶋 勇介	〃	愛知大学野球春季リーグ戦	ベストナイン(捕手)
法律	与世山修平	〃	愛知大学野球春季リーグ戦	ベストナイン(一塁手)
現企	上野 友敬	〃	愛知大学野球春季リーグ戦	ベストナイン(三塁手)
心理	梶原 康之	〃	愛知大学野球春季リーグ戦	ベストナイン(外野手)
経営	高松 倫也	柔道部	愛知県段別柔道選手権大会	二段の部:優勝
現社	須江 昂太	〃	東海学生柔道夏季優勝大会	優秀選手賞
現社	杉原 大将	〃	東海学生柔道体重別選手権大会	66kg級:優勝
歴史	根本 共平	〃	愛知県学生柔道新人優勝大会	優秀選手賞
経営	時田 一希	相撲部	西日本学生相撲個人体重別選手権大会	65kg未満級:準優勝
経営	高田 司	〃	全国学生相撲個人体重別選手権大会	75kg未満級:ベスト8
心理	神谷 千景	馬術部	中部学生馬術女子選手権大会	優勝
現社	大場 憲人	ボクシング部	中部学生トーナメント	フライ級:優勝
ビジネス	西村 翼	〃	中部学生トーナメント	ライトウェルター級:優勝
法律	小池 和哉	日本拳法部	中部日本学生拳法選手権大会個人戦	優勝
健康	肥子裕美子	ヨット部	中部女子学生ヨット選手権大会	470級:優勝
健康	東 はるか	〃	中部女子学生ヨット選手権大会	470級:優勝
健康	戸田有希乃	陸上競技部	愛知レディース陸上大会	1000m:優勝
法律	伊藤 洋輝	〃	東海陸上競技選手権大会	4X400mリレー:優勝
経営	田口 明	〃	東海陸上競技選手権大会	4X400mリレー:優勝
ビジネス	野澤 俊輔	〃	東海陸上競技選手権大会	4X400mリレー:優勝
歯	伊東 雅哲	〃	東海陸上競技選手権大会	4X400mリレー:優勝
現社	三浦 萌	〃	東海陸上競技選手権大会	やり投げ:優勝
経営	戸経 英斗	射撃部	第77回中部学生ライフル射撃選手権大会	300mライフル:優勝 300mエアピストル:優勝
経営	〃	〃	第78回中部学生ライフル射撃選手権大会	300mライフル:優勝 300mエアピストル:優勝
健康	藤原 里帆	空手道部	日本空手協会 愛知県空手道選手権大会	高校一般女子組手の部:優勝
経営	黒野 正峰	〃	日本空手協会 愛知県空手道選手権大会	一般男子組手の部:優勝
宗教	江藤 茜	〃	東海地区大学空手道選手権大会個人戦	女子組手の部:優勝
宗教	〃	〃	春季東海地区大学空手道選手権大会	女子個人組手:優勝
商	原田 彩未	〃	日本空手協会 東海地区空手道選手権大会	女子組手:優勝
健康	大西 悠加	バレーボール部(女子)	東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会	最優秀選手賞
健康	〃	〃	西日本バレーボール5学連男女選抜チーム対抗戦	最優秀選手賞
ビジネス	井之口綾香	〃	東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会	ブロック賞
健康	塚本 尚子	〃	東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会	リベロ賞
商	竹本 由美	〃	東海大学男女バレーボールリーグ戦春季大会	セッター賞

この1年間、対外活動・試合などで優秀な成績を収め、本学の名声を高めた文化系・体育系クラブ(団体・個人)に対する「平成22年創立記念日クラブ表彰」が10月15日に行われた。

表彰の対象となる期間は平成21年10月1日から平成22年9月30日までの1年間。団体は、日本代表になったクラブ、全日本選手権大会で8位入賞まで、地方大会で優勝または準優勝、中部・東海地区大会で優勝、県大会で優勝したクラブ。個人は団体と同ランクの成績を収めた者のほか、最優秀選手賞やベストナイン等を受賞した者、その他、活動が特に顕著であったクラブや個人。

今回は団体30クラブ、(うち歯・薬学部18クラブ)と個人126人(うち歯・薬学部50人)が表彰を受けた。

▷歯学部(団体の部)

クラブ名	大会名	成績
ラグビー部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	準優勝
硬式庭球部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合優勝 男子団体戦:優勝 女子団体戦:優勝
サッカー部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	準優勝
バドミントン部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合:第3位 男子団体戦:優勝
ボウリング部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合優勝 団体戦:優勝
空手道部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合優勝 団体戦:優勝
少林寺拳法部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合優勝 団体戦:優勝
ヨット部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合優勝
水泳部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子個人:優勝 男子団体:優勝
バスケットボール部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合:優勝 男子:優勝
剣道部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	女子団体戦:第3位
卓球部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合優勝 女子団体戦:優勝
日本拳法部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	総合第3位
陸上競技部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子4X400mリレー:第3位
ソフトテニス部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子団体 準優勝
アーチェリー部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子団体 第3位

▷薬学部(団体の部)

クラブ名	大会名	成績
薬学部剣道部	第40回中部医歯薬剣道大会(歯学部合同)	男子団体:優勝 女子団体:優勝
〃	第64回関西薬学生連盟剣道大会	女子団体:優勝
〃	第29回全日本薬学生剣道大会	女子団体:準優勝
薬学部陸上競技部	第10回全日本薬学生対抗陸上競技大会	女子トラックの部:3位

▷歯学部(個人の部)

学年	氏名	クラブ名	大会名	成績
5	中村 英貴	スキー部	冬季歯科大学対抗戦	男子個人総合:優勝 男子SL:優勝
〃	〃	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子SL:第3位
4	宗金 一考	日本拳法部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子個人戦:第3位
3	榊原 一宏	柔道部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	73kg以下級:第3位
1	杉 香奈子	少林寺拳法部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	新入会の部:優勝
1	吉岡 真悠	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	新入会の部:優勝
1	黒川 聖志哉	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	新入会の部:第3位
1	濱地 峻純	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	新入会の部:第3位
2	川原 優	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	級拳士の部:準優勝
2	宮園 将也	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	級拳士の部:準優勝
3	徳田 篤紀	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	初段の部:優勝
3	鳥井 祐作	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	初段の部:優勝
3	関澤 雅俊	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	初段の部:準優勝
3	中井 一尊	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	初段の部:準優勝
3	大森 直樹	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	初段の部:第3位
3	片山 崇	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	初段の部:第3位
4	鈴木 貴大	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	二段以上の部:準優勝
4	鈴木 崇之	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	二段以上の部:準優勝
5	江端 希子	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	二段以上の部:第3位
5	川島 由衣	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	二段以上の部:第3位
5	田中 佑典	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	準優勝 有段者の部:準優勝
4	桜田 公平	陸上競技部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子砲丸投:準優勝
5	江頭 美喜	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	女子100mハーフ:優勝 女子砲丸投:優勝
2	伊東 雅哲	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子200m:優勝 男子400m:優勝
4	杉本 真一	バドミントン部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子シングルス:優勝 男子ダブルス:優勝
6	小川 直寛	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子ダブルス:優勝 男子シングルス:第3位
6	中山 英典	ボウリング部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	シングルス:優勝
6	野田 康二	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	ダブルス:第3位
3	岡本 直樹	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	ダブルス:第3位
3	大森 直樹	水泳部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子1000m:優勝 男子200m:準優勝
4	岩井 宏次	剣道部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子個人戦 初段の部:第3位
5	竹原 庸介	ヨット部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	個人総合:第3位
5	堀尾 公彦	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	個人総合:第3位
1	楊 承翰	アーチェリー部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	新人男子:優勝
3	石井 輝	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子個人:第3位 男子70m:優勝
1	鈴木 優来	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	新人女子 準優勝
2	大村 真未	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	新人女子 第3位
1	早川 亜希	卓球部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	女子シングルス:優勝 女子ダブルス:優勝
4	壇上 裕一	ソフトテニス部	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子個人戦:第3位
5	諏訪 将俊	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	男子個人戦:第3位
4	小原 里織	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	女子個人戦:第3位
5	赤堀 美帆	〃	第42回全日本歯科学生総合体育大会	女子個人戦:第3位

▷薬学部(個人の部)

学年	氏名	クラブ名	大会名	成績
4	内山 明大	薬学部剣道部	第64回関西薬学生連盟剣道大会	男子個人:優勝
2	阿知波侑子	〃	第64回関西薬学生連盟剣道大会	女子個人:優勝
4	橘原 志歩	〃	第64回関西薬学生連盟剣道大会	女子個人:準優勝
4	佐野 友香	薬学部卓球部	第42回東海医歯薬学生卓球大会	女子シングルス:優勝 女子ダブルス:優勝
〃	〃	〃	第53回全日本薬学生卓球大会	女子ダブルス:3位
2	田中万祐子	〃	第42回東海医歯薬学生卓球大会	女子ダブルス:優勝
〃	〃	〃	第53回全日本薬学生卓球大会	女子ダブルス:3位
4	竹内 健人	薬学部陸上競技部	第10回全日本薬学生対抗陸上競技大会	男子やり投:優勝 男子70m:優勝
4	岡部 真幸	〃	第10回全日本薬学生対抗陸上競技大会	男子やり投:準優勝
2	小西彩代子	〃	第10回全日本薬学生対抗陸上競技大会	女子3000m:優勝 女子800m:準優勝
2	森田 愛	〃	第10回全日本薬学生対抗陸上競技大会	女子100m:準優勝 女子200m:3位